



社会医療法人 葦の会 オリブ山病院

ご自由にお取りください

オリブ山たより

春号

2026.04 No.89
社会医療法人 葦の会 広報誌

O R I B U Y A M A T A Y O R I



『マース煮 with 島豆腐が好き。』

細かい所をぬるのが難しかったです。ハンコは「カメ」という文字です。
亀の歩みのようにゆっくりですが、前に進んでいきたいと思います。A.1

傷ついた葦を折ることなく、ほのぐらい灯心を消すことなく、真実をもって道をしめす。(イザヤ書 42章3節)



これまでのご経験は、現在の医療観に

「断らない医療」と「世界への挑戦」

インタビューー

「命」を守る部分と、精神医療という「人間としての営み」を支える部分、一つの線上の両極にあるだけで、実は地続きなのだと感じます。

玉城 実は先ほどの嵩下先生の留学の話、私にも全く同じ経験があるんです。私もコネなど一切なく、50通程の手紙を英国の研究室に送り、ようやくロンドンのLHMCの研究室に受け入れてもらえました。分野としては全く異なりますが、DNA鑑定も精神科における診断も、「その結果がその人の今後の人生に極め

て大きな影響を及ぼし、社会的にも重い意味を持つ」という点において、本質的な責任の重さは同じだと考えています。

地域を「線」でつなぐ医療

インタビューー 地域医療の連携について、現在どのような課題と展望をお持ちですか。

玉城 オリブ山病院では現在「にも包括（精神疾患にも対応した地域包括ケアシステム）」の構築に注力しています。精神疾患があっても、住み慣れた地域で自分らしく生きるための手助けをすることです。そのためには、病院の中だけの治療では不十分であり、積極的に訪問診療や訪問看護などを行っています。私はこれを「ドブ板精神医療」と呼んでいます。医師やスタッフが地域に泥臭く入り込み、在宅での生活を支える仕組みを作っています。

嵩下 なるほど。高度急性期を担う我々にとっても、患者さんが退院した後の地域での受け皿は不可欠です。まさに「医療を点で終わらせず、

んだ」と思いましたが、あの環境で鍛えられたおかげで、今の医療現場でも折れない「根性」と「体力」が培われました。

嵩下 同感です。救急の現場など、体力勝負の場面で「自分には土台がある」と自信を持てるのは、間違いない。あの原点があるからです。苦楽を共にした仲間との絆は、今も私の宝物ですよ。

医療の「時間」 反射神経と伴走

インタビューー 現在の医療において、「時間」の違いについてどのように感じていますか。

嵩下 救急医療は一言で言えば「反射神経的な医療」です。一分一秒での判断が求められ、一瞬の見逃しが患者さんの生命・人生を左右する。濃密な緊張感のあとに安堵があり、時に深い反省がある。その繰り返しです。私はもともと変化を好む性格なので、このスピード感が合っている線にする「取り組みですね。

組織を動かす力

インタビューー 最後に、今後の組織づくりに関する展望をお聞かせください。

玉城 嵩下先生の友愛医療センターでは、「E.G.A.O課」というユニークな部署を設置され、コロナ禍で希薄になった「コミュニケーションの回復とスピード感のある課題解決に取り組みられていますね。

嵩下 ええ、部署の垣根を越えた連携には非常に効果を感じています。トップダウンではなく、現場が自律的に動ける組織を目指しています。

玉城 オリブ山病院においても、地域に根差し、患者さんとご家族に寄り添う姿勢を貫くためには組織の力が重要です。そのために私も、できるだけ垣根を低く保つことを目標としています。「心理的安全性の高い組織」を作ることが、最終的に良い医療へと繋がります。お互いに「選ばれた病院」として、これからも沖縄の地域医療を共に牽引していきましょう。



一瞬の判断から、人生を支え続ける医療へ

— 青雲の友と語る、救急と精神医療の交差点 —

るのかも知れません。

玉城 精神科や回復期は、月・年単位で患者さんの変化を待ち、その方の「生活」や「人生」そのものをみていく時間軸です。しかし精神科でも、動くべきときを逃すと、治療や環境調整を一から組み立てなくてはならない場合もあり、スピード感が求められることもあります。

嵩下 そうですね。実は、救命救急という「生物としての命」を守る部分と、精神医療という「人間としての営み」を支える部分、一つの線上の両極にあるだけで、実は地続きなのだと感じます。

どう影響を与えていますか。

嵩下 私の原点には、県立中部病院での経験があります。どんなに忙しくても患者さんを受け入れ、全人的に診る姿勢を叩き込まれました。その後、さらに研鑽を積むために海外へ出しましたが、当時はコネも何もなく、100通もの手紙を海外の病院に送り、ようやくカナダや香港での留学を勝ち取りました。SARSの最前線で治療にあたった経験から学んだのは、専門特化する前に「シエナラル（総合的）」な知識を持つことの重要性です。

インタビューー 法医学から精神科というキャリアは非常に珍しいですね。

沖繩の地域医療を支える一つの病院、高度急性期医療の「友愛医療センター」とケアミックスの「オリブ山病院」。両院の院長は、長崎青雲高校で共に学んだ同級生である。約40年の時を経て、ここ沖縄で病院長となった二人に、それぞれの医療について語っていただいた。

厳格な寮生活で培った「根性」と体力」

インタビューー お二人の原点である青雲高校時代について教えてください。

玉城 嵩下先生とは長崎にある青雲高校の同級生です。まさか還暦を目前にして、こうして沖縄で共に院長として対談する日が来るとは、高校時代には想像もしていませんでした。

嵩下 本当にそうですね。私たちは青雲高校の8回生の同期で、3年4組同じ教室の前後の席で過ごした中で、ほとんど兄弟のようなものです。あの頃の生活は、今思えば凄まじかった(笑)。

玉城 朝6時半に叩き起こされて、真冬でも上半身裸で乾布摩擦。体育の前には過酷なサーキットトレーニング…。当時は「なんて理不尽な

んだ」と思いましたが、あの環境で鍛えられたおかげで、今の医療現場でも折れない「根性」と「体力」が培われました。

嵩下 同感です。救急の現場など、体力勝負の場面で「自分には土台がある」と自信を持てるのは、間違いない。あの原点があるからです。苦楽を共にした仲間との絆は、今も私の宝物ですよ。

医療の「時間」 反射神経と伴走

インタビューー 現在の医療において、「時間」の違いについてどのように感じていますか。

嵩下 救急医療は一言で言えば「反射神経的な医療」です。一分一秒での判断が求められ、一瞬の見逃しが患者さんの生命・人生を左右する。濃密な緊張感のあとに安堵があり、時に深い反省がある。その繰り返しです。私はもともと変化を好む性格なので、このスピード感が合っている線にする「取り組みですね。

組織を動かす力

インタビューー 最後に、今後の組織づくりに関する展望をお聞かせください。

玉城 嵩下先生の友愛医療センターでは、「E.G.A.O課」というユニークな部署を設置され、コロナ禍で希薄になった「コミュニケーションの回復とスピード感のある課題解決に取り組みられていますね。

嵩下 ええ、部署の垣根を越えた連携には非常に効果を感じています。トップダウンではなく、現場が自律的に動ける組織を目指しています。

玉城 オリブ山病院においても、地域に根差し、患者さんとご家族に寄り添う姿勢を貫くためには組織の力が重要です。そのために私も、できるだけ垣根を低く保つことを目標としています。「心理的安全性の高い組織」を作ることが、最終的に良い医療へと繋がります。お互いに「選ばれた病院」として、これからも沖縄の地域医療を共に牽引していきましょう。



社会医療法人友愛会
友愛医療センター 院長
嵩下 英次郎

だけした・えいじろう 1991年産業医科大学卒業後、沖縄県立中部病院で研修医として医師人生を開始。同院で医師としての基本的な考え方と医療観を培い、「患者さんのための医療の実現」を信念として歩んできた。現在は高度急性期医療を担う立場として、医療環境の変化に対応しながら、より良い医療の提供と組織の発展に取り組んでいる。2025年より現職。



社会医療法人葦の会
オリブ山病院 院長
玉城 尚

たまき・なおし 1991年琉球大学医学部卒業後、同大学法医学教室助手。1997年英国LHMCにてDNA鑑定研究に従事。帰国後は沖縄中部徳洲会病院、オリブ山病院、千葉西総合病院などで勤務。2008年エステルクリニック所長、2021年より現職。



気づいてほしい 私の気持ち ～気づいてあげたい あなたの心～

那覇市の自殺者数は、近年減少傾向でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、令和3年以降増加傾向にあります。令和4年の自殺者は83人と前年に比べ27人増加しており、過去10年で1番多い状況となっています。(那覇市自殺対策計画 令和6年3月より)



左から、平良直人理事長、島袋盛洋院長、竹中智華さん、儀間貴恵院長、玉城尚院長



リスナーからの質問に答える玉城院長

令和8年2月4日、ラジオ沖縄の生放送番組『華華天国』において、那覇市医師会うつ病対策検討委員会が主催する毎年恒例の特別番組が放送されました。今回のテーマは「気づいてほしい 私の気持ち」気づいてあげたいあなたの心」です。

専門家指摘する 現代のメンタルヘルス課題

番組冒頭、平良直人先生は日本の自殺率の現状を解説されました。主要7カ国（G7）の中で日本の女性の自殺率は1位という深刻な状況にあり、コロナ禍以降、子育てや在宅勤務による孤独感といった社会的要因が女性の負担を増大させていると指摘。解決策を提示するよりも「ただ話を聞いてあげる（傾聴）」ことの重要性を説かれました。

生は、更年期障害や月経不順がうつ症状と酷似しており見極めが難しいことを挙げ、まずは受診しやすい婦人科を相談の窓口にしてほしいと提案されました。また、島袋盛洋先生は、心の不調がパニックや呼吸困難感などの身体症状として現れることが多い点に触れ、精神科への受診は依然としてハードルが高いもの、できるだけ早く受診することが回復への近道であると強調されました。

孤立を防ぎ、 変化に気づくための寄り添い方

当院の玉城尚院長は、職場や家庭、そして若年層の心の不調に対し、周囲がどのようにサポートすべきかについて、自身の経験を交えながら詳しく解説しました。

1 職場での「言い出せない」心に寄り添う

職場においてメンタル不調を感じている人は、「自分が休むと皆に迷惑をかける」という強い不安や自責の思いを抱えがちです。玉城院長は、「不調をこじらせる前に、早めに健康相談室や産業医などの窓口へ繋げることが大切」と強調しました。本人が「変だな」と自覚

- 「最近、よく眠れているか？」
- 「ご飯を美味しく食べられているか？」
- 「表情が暗くなっているか？」
- 「好きだったことに興味を示さなくなっていないか？」
- 「こうした「日常の当たり前」が崩れているサインを察知し、声をかけることが、心の扉を開ききっかけになります。

3 「ゲートキーパー」としての役割と家族のケア

悩んでいる人を適切な窓口へ繋ぐ「ゲートキーパー」の役割について、玉城院長は「無理強い禁物」と説きます。いきなり受診を強いるのではなく、まずは本人の話を確認し、本人が「どうしてほしいか」を確認することが先決です。また、「家族だけで解決しよう」とせず、一緒に病院を受診すること」を推奨しています。本人は診察時に無理をして「大丈夫です」と取り繕ってしまうことがありますが、家族が同席して客観的な普段の様子を伝えることで、医師は生活の実態を正確に把握でき、より適切な治療方針を立てることが可能になります。

4 若年層の悩みと向き合う姿勢

昨今の不登校や若年層の不調に

は、SNSでの人間関係が深く関わっているケースが見受けられます。子供に対し、親が無理やりカウンセリングを受けさせようとしても、本人の意思が伴わなければ逆効果になることもあります。まずは「あなたの味方だよ」という姿勢を示し、親御さん自身も医師や専門家と相談しながら、焦らず長い目で見守っていく姿勢が大切です。

時間はかかっても、道は開ける

うつ病の治療や心の回復には時間がかかります。今日明日で解決するものではないという認識を持ち、焦らずに向き合っていくことが大切です。玉城院長は最後に、「いつもとちょっと違うなと感じたら、遠慮なく病院や保健所などの相談窓口を利用してください。私たちは、ご本人やご家族が良くなっていく過程を共に見守るサポーターです」と、メッセージを送りました。

心の病は目には見えませんが、誰にでも起こりうるものです。一人で抱え込まず、言葉にして誰かに伝えること。その一歩が、大切な命を守ることに繋がります。



生放送に向けての事前打ち合わせ

した時点、あるいは周囲が「いつもと違う」と感じた時点で、専門家のアドバイスを受けることが早期回復への鍵となります。

2 家族が気づく「いつもと違う」というサイン

家族など身近な存在の役割は、本人を「孤立させないこと」です。うつ状態にある方は自分を責め、顔向けできないと考えがちです。そこで、家族は無理に励ますのではなく、日常生活の小さな変化に目を向ける必要があります。



玉城院長
特別寄稿

悩める人を支えるために 「無理強いをしないこと」

悩める人を支える際、大切なのは「無理強いをしないこと」です。いきなり受診を強いると本人が心を閉ざす恐れがあるため、まずはじっくり話を聴き、本人がどうしてほしいかを確認しましょう。もし本人が受診を拒むなら、ご家族だけの相談も可能です。

支える側も一人で抱え込まず、ご自身のサポートのために専門家を頼ってください。私たちは、ご家族と共に回復を見守るサポーターです。



本記事の内容や、メンタルヘルスに関するご相談は、当院の受付または相談窓口までお気軽にお問い合わせください。

ナビダイヤル（相談課）

0570-0999-784

アイスコーヒー(S)1杯無料
(1回1名限り有効)
有効期間:2026.5/10日~6/30(水)



心豊かな時間を、特別なロールケーキと共に。 メニュー・リニューアルのお知らせ

いつもcaféわきみずをご利用いただきありがとうございます。この度、就労継続支援B型事業所 caféわきみずは、より良きサービスと、利用者さんの就労支援の充実を目指し、生菓子のラインナップを「ロールケーキ」に限定・集約することとなりました。

私たちは、通所される利用者さんが無理なく、かつ専門的な技術を習得できる環境を大切にしたいと考えています。そこで工程をシンプルにし、覚える範囲を絞ることで、利用者さんが日々の業務の中で確かな「自信」と「達成感」を得られるよう配慮するた

めに今回のリニューアルを行うことを決めました。厳選したロールケーキを、これまで以上に丁寧に、心を込めてお作りします。

焼き菓子についてはこれまで通り継続し、コーヒーとの最高のマリアージュを提供します。働くスタッフや利用者さんの心が整うことで、より一層美味しいお菓子が生まれると信じています。皆様のご来店を心よりお待ちしております。

※オリブ山たよりをご提示いただくと、「アイスコーヒー(S)」を **三角クーポン1枚につき1杯(店内のみ)** プレゼントいたします。



〒903-0804 那覇市首里石嶺町4-356-5 首里ビル2階 TEL:098-886-2320
営業日:平日11:00~14:30(ラストオーダー 14:15) / 定休日:土・日・祝日

社会医療法人 葦の会 **オリブ山病院**

看護師 募集!!

- 給与**
1)月額:244,000円~312,190円(*)
2)賞与:3カ月分(前年度実績)
- 勤務時間**
1)早出:07時00分 ~ 16時00分
2)日勤:08時00分 ~ 17時00分
3)夜勤:17時00分 ~ 09時00分
*勤務する病棟により異なることがあります
- 入職祝い(前年度)**
夜勤可・土日祝日勤務可: **30万円**
日勤のみ・土日祝日勤務制限あり: **15万円**

(*) 常勤に限る 夜勤や土日祝日勤務などの条件により変動します
(*) 支給条件や時期などは、入職時期によって異なります



お問い合わせ
0570-099-784
ナビダイヤル ④その他(看護師採用担当)

音声ガイダンスに従って番号をお選びください。
*ご案内の途中でも番号入力することができます。
*該当の部署につながるまで電話料金は発生しません。

地域WORLD

地域の皆様へ

児童デイサービスホサナは、開設13年で、この場所へ引っ越してきて2年がたちました。これまで地域の皆様のあたたかい支援をいただきながら、日々活動しています。

ホサナは、体に障がいのあるお子さまや、医療的ケア(人工呼吸器、痰の吸引や経管栄養など)が必要なお子さま、また未就学のお子さまが利用しています。現在、1日平均16名ほどの子供たちが利用しており、職員は保育士、介護福祉士、看護師、心理士、理学療法士等です。

ホサナでは、子供たちと思いっきり遊び、遊びを

児童デイサービスホサナ

児童発達支援管理責任者 下地
とおして学ぶことを大切にしています。遊びの中で体を動かしたり、友達と関わったりする経験をとおして、子供たちが少しずつ成長していけるよう支援しています。

地域の皆様に支えていただいていることに感謝しながら、これからも子供たちの個性やペースを大切に、笑顔で過ごせる場所、安心できる場所、ご家族にとってほっとできる場所でありたいと願っています。ぜひ、気軽に遊びにきてください。

これからも、よろしくお願ひします。



左:2025年クリスマス会(石嶺公民館)
右:道の駅員志頭にて

オリブ山デイサービスひまわり

憩いの空間、発動!

オリブ山デイサービスひまわり 大城 悟

昨年11月より、半日型ひまわり1階のレイアウトを変更して憩いの場を作りました!

マシントレーニングで疲れた体を癒す束の間の憩いの場には、セルフで飲めるコーヒーコーナーを設置。またネイルや編み物の道具を取り揃え、気分転換を図れるような創作活動の場としても、空間を整えました。最初は、馴染みのない空間に利用される方は少数でしたが、日を追うごとに利用者さんが増え、ネイルや手芸などの活動をおこないつつ、コーヒー片手にゆんたくを楽しむ様子がみられるようになりました。日々色んな表情を見せる憩いの空間は、今日も利用者さんに親しまれています。



リラックスコーヒータイムを満喫中!!

オリブ山デイサービスひまわり
西原町字幸地 973 / 電話:098-944-4165



新年度のご挨拶

社会医療法人 葦の会 理事長
田頭 真一

春の訪れとともに、新たな年度が始まりました。日頃より、社会医療法人葦の会の医療・介護・福祉の働きにご理解を賜り、温かくお支えくださっている地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

私たちは、「住み慣れた地域で、その人らしく生きる」ことの大切さを覚え、地域医療に取り組んでおります。病気や障害、そして高齢化に伴うさまざまな不安を抱えるときであっても、地域の中で安心して医療やケアを受けられることは、日々の生活を支える土台となります。

そのため葦の会では、オリブ山病院での外来・入院医療をはじめ、診療所シャロンクリニック、介護老人保健施設オリブ園を軸として、外来診療、在宅医療や介護、予防医療、さらに心の支援に至るまで、切れ目のない支援体制を整えてまいりました。

近年、社会は大きく変化し、医療や介護を取り巻く環境も厳しさを増しています。しかし、そのような時代だからこそ、私たちは原点に立ち返り、一人ひとり

を大切にすることを実践してまいりたいと願っています。

葦の会が掲げる理念は、「からだの癒やし、こころのケア、たましいの救い」です。身体の治療をはじめ、さらに不安や孤独に寄り添い、人生の意味や希望に目を向ける全人的なケアを目指しています。医療は技術はもとより、人と人との信頼の上に成り立つ営みです。

葦の会ではキリスト教理念として、「私たちはキリスト教精神にもとづき、病める者の肉体的、精神的、社会的、さらに霊的ないやしを含めた全人医療の実践をとおして、主の栄光のために奉仕する」

と掲げております。地域の皆様とのつながりを大切にしながら、これからも誠実に歩んでまいります。

本年度も、地域の皆様と力を合わせ、安心して暮らせる地域づくりに貢献してまいりますので、どうぞお気軽にご相談いただき、今後とも葦の会の働きをお支えいただけましたら幸いです。

新しい年度が、地域の皆様お一人おひとりにとって、健やかで希望に満ちた一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

● オリブ山病院 外来表

※脳神経内科(もの忘れ外来)

内 科	受付時間	月	火	水	木	金
	8:30~11:30	内科	内科	内科 脳神経内科(予約) (もの忘れ外来)	内科 脳神経内科(予約) (もの忘れ外来)	内科
	13:30~16:00	内科	内科	予約外来 ホスピス(予約)	内科 脳神経内科(予約) (もの忘れ外来)	内科 呼吸器内科

精神科	受付時間	月	火	水	木	金
	8:30~11:30 (初診11:00迄)	精神科 心療内科	精神科 心療内科	精神科 心療内科	精神科 心療内科	精神科 心療内科 児童思春期(予約)
	13:30~16:00 (初診15:00迄)	精神科 心療内科	精神科 心療内科	予約外来	精神科 心療内科	精神科 心療内科 児童思春期(予約)

オリブ山病院へのお問い合わせは

音声ガイダンスに従って番号をお選びください。

● 医療相談科

- ・初めて受診される方
- ・入院のご相談
- ・相談員宛



● 外来

- ・症状やお薬について
- ・疑義照会



● 医事課

- ・予約のご確認
- ・入院費について
- ・自立支援のお手続き



● 総務課

- ・その他のお問い合わせ



0570-099-784(代表)

※ご案内の途中でも番号入力することができます。
※該当の部署につながるまで電話料金は発生しません。
※診療時間などは掲載時と異なる場合があります。